

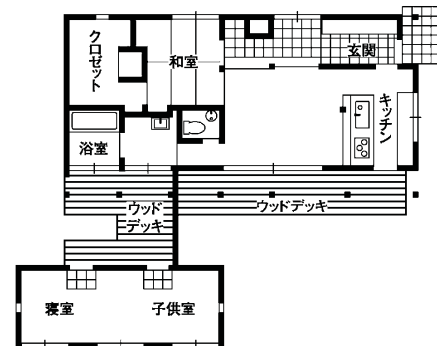


設計主旨

CONCEPT

敷地は緩やかな南傾斜になっており、廻りに家も少なく静かな環境です。ここに家族5人が暮らす比較的小さな家を計画しました。建築費を抑えながら、伝統的な仕口や継ぎ手を使った木組みの家を実現すること、薪ストーブを囲んだ家族の居場所を作ること、風が通る家とすることが、主なテーマとなっています。コスト削減の方法として、「建主が出来る事は自分でやる」を合い言葉に、建主自らが建築に参加してもらいました。離れ（子供室）の床、壁、天井は建主の施工とし、他、デッキ、ポーチの洗い出し、薪ストーブの取り付けまで、我が家作りをおおいに楽しんでいただきました。薪ストーブを玄関を兼ねた広めの土間に置き、土間に面して居間、キッチン、和室を配置する事で、居間と土間、各室が繋がり、家族で薪ストーブを囲めるようにしました。夏は居間、キッチン南の窓と土間、和室北の窓を開ける事で家全体に風を通します。又、この家の大きな特徴として、緩やかに傾斜する敷地を造成することなく建物を計画、高いレベルに主屋、低いレベルに離れを作り、それぞれのレベル差をデッキで繋ぎました。外観上、地形の傾斜に合わせた緩い勾配の一枚の屋根で家全体を覆い、低さと真つすぐ延びる軒先ラインを強調したシンプルな印象としました。離れはこの小さな家に於いてプライバシーの高い部屋となりました。当面は子供室として使用する予定ですが、将来は家族の状況に合わせた多目的な使い方が出来ると思います。子供室として使用する場合、3人の姉妹が12帖の部屋の中で、自分の居場所を確保しつつ、空間を共有することで、協調と自立を学びます。冬は薪ストーブで暖め、夏は風を通すことで過ごす。なるべくエアコン等機械設備に頼らないシンプルな暮らしを目指します。

平面図



優秀賞 | ぐんまの家
GUNMA HOUSING AWARD

(子育て支援賞)

小坂子の離家

(こごかしのはなれや)

設計者/工作室

施工者/有限会社 ケイハウス



講評

REVIEW

田園地帯の緩やかな南傾斜に建つ平屋住宅。アプローチには薪が積み並べられ、軒の深い屋根と色を抑えた塗り壁の外壁が、新築であることを忘れてしまうくらい周囲の環境に溶け込んでいる。

プランは敷地の緩やかな傾斜をそのままに、生活の中心である「主屋」と南西側の小さな「離れ」をデッキで繋ぐシンプルな構成である。

玄関を兼ねた土間には薪ストーブが置かれ、障子を開け放つことで居間・キッチン・和室が1つの開放的な空間となる。建具を動かすことで柔軟に使い勝手を変えと同時に、家全体に十分な通風を確保し、エアコン等の機械設備に頼らないシンプルな暮らしを実現している。

12帖の広さの「離れ」へは屋外デッキを渡ることになるが、雨風はしのぎながらも「外気」を感じる情緒あふれる生活が想像される。子供部屋として、あるいは多目的なスペースとして活用されるこの空間は、子供の成長に大切な場となることであろう。

伝統的な技術を受け継ぐ仕口や接ぎ手を使った木組みの家は、自然素材中心の作りである。建主自らが建築に参加したことで、今後も自分でメンテナンスすることが可能となり、大切にされ続けることでより一層愛着のわく、楽しい住宅である。

